

この街が
好きだから

大須賀一雄

武蔵野スケッチ物語

④0



見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。
そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。

緑町二丁目付近

この作品は、昨年の四月に桜が満開の緑町一丁目の交差点で描いたものである。

絵を描いている時、ふと知人のYさんが、描いた絵を写真に撮って送ってくれたのを思い出した。それはある駅前風景で、画面の中に信号機が描かれていた。それを見た瞬間、「おやー」と思った。何と信号の色が、赤、黄、青の三色で描かれているではないか。長年絵をやってきたYさんがなぜ信号を三色で描いたのか、画家の私にとって不可解なことであった。もしかして、彼は作品の中で時間の推移を表現して、あえて三色にしたのではないか。とすれば、何とユニークな発想だろう。

気になるので、早速真意を確かめたくなりYさんに電話してみた。ところが、彼の返事はまったくそのことに気付かず描いてしまったとのこと。私の一方的な妄想が生んだ誤解であった。

(絵と文 大須賀一雄)

大須賀一雄 (おおすか・かずお)

水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』(日貿出版社)、『スケッチお手本帖』(素朴社)ほか。現在、JR東日本のジパング倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も20回を超える。